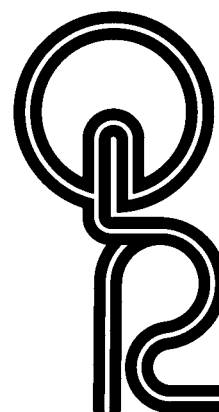


QR Newsletter

第四紀通信

Vol. 22 No.2, 2015



和歌山県西牟婁郡白浜町でのハンドコアラー掘削調査 (撮影：千葉 崇)

Vol. 22 No. 2

April 1, 2015

2015年大会案内 (第3報)..... 2	INQUA 名古屋大会開催への寄付金について..... 7
2014年学会賞・学術賞受賞者講演会報告..... 4	日本地球惑星科学連合 2015年大会プログラム (暫定版)..... 8
第四紀学会講習会のお知らせ..... 5	2014年度第2回評議員会議事録.....11
INQUA 名古屋大会にかかる普及講演会・特別展示のご案内..... 6	2014年度第5回幹事会議事録..... 18
	会員消息..... 19

◆日本第四紀学会 2015年大会案内（第3報）

今大会は INQUA 名古屋大会の直後にあたるため、開催期間は2日間と例年よりも短く、一般研究発表はポスター形式のみとなります。ただ、期間中はシンポジウムと学術賞受賞者講演会の他、INQUA大会のポスター発表の再掲の企画もあります。会員の皆様の積極的なご参加、ご発表をお待ちしています。

【大会の概要】

1. 日時・開催場所：2015年8月29日（土）～8月30日（日）
早稲田大学教育学部（早稲田キャンパス）
最寄り駅 地下鉄東西線「早稲田」、都電荒川線「早稲田」
2. 日 程：
8月29日（土） 午前 評議員会
午後 ポスターの概要説明（希望者のみ、1人3分）
ポスターセッションコアタイム
2014年学術賞受賞者講演会（阿部彩子会員）
懇親会および学会賞等表彰式
8月30日（日） 午前 公開シンポジウム
午後 総会
ポスターセッションコアタイム
3. 発表の申し込みと要旨原稿の締め切り：6月30日（火）
4. シンポジウム
公開シンポジウム「第四紀学から防災教育へのメッセージ」
2015年8月30日（日）
世話人：久保純子（早稲田大）、植木岳雪（千葉科学大）、卜部厚志（新潟大）
詳細は第四紀通信6月号と学会ホームページに順次掲載します。
5. 大会実行委員会
実行委員会委員長：久保純子
実行委員：小森次郎（幹事会）、小松哲也、谷川晃一郎、南雲直子、船引彩子、山本隆太、廣野聡子（早大）
連絡先：2015年大会実行委員会事務局
新宿区西早稲田1-6-1 早稲田大学教育学部
大会用E-mailアドレス：[jaqua.event \(at\) gmail.com](mailto:jaqua.event@gmail.com)
(送付の際には (at) を @ に変えてください)

【発表の申し込み】

1. 発表者の資格と発表件数の制限
筆頭発表者は本学会の会員に限ります。1人1件の発表が可能です。
2. 発表の形式と発表時間
一般研究発表はポスター形式のみとします。2日間でポスターの張り替えは行わない予定です。
ポスターのサイズやコアタイム等の詳細は次号の第四紀通信にてお知らせします。
3. 発表申込書と講演要旨の送付方法
一般研究発表の希望者は、学会ホームページの「大会・総会」のページ
(<http://quaternary.jp/meeting/index.html>) から、2015年大会のサイトへ進み、「2015年大会発表申込書」と「講演要旨原稿の書き方及びテンプレート」と書かれたリンク部分からファイルをダウンロードし、以下の案内にそって申し込みを行ってください。
・申し込みと要旨原稿の締め切り：6月30日（締め切り厳守）。

- ・発表申込書と原稿は添付ファイルとして専用のアドレス jaqua.event (at) gmail.com に送付してください (at を @ にかえる)。メールの題名は「発表申込_筆頭発表者名」、添付ファイル名は「講演要旨_筆頭発表者名」としてください。
- ・講演要旨の原稿は、「講演要旨原稿の書き方及びテンプレート」にある書き方にそって作成してください。原稿のサイズは A4 で 1 ページ (図表掲載可) です。
- ・29 日午後のポスターの概要説明 (3 分間プレビュー) を希望する方は、申込書の該当箇所にチェックを入れてください。
- ・手書きによる原稿、および郵送による投稿の方は上記専用アドレスにお問い合わせください。

4. 若手・学生発表賞へのエントリー

本会会員で 39 歳以下 (2015 年 8 月 1 日時点) の方は、若手・学生発表賞にエントリーすることができます。本大会では、一般発表はポスター発表に限られておりますので、ポスター若手部門、ポスター学生部門が設けられております。エントリー希望の方は、発表申込書の若手・学生発表賞エントリー欄の該当箇所にチェックを入れてください。積極的なエントリーを期待しております。

5. 知的財産権に関する講演要旨執筆上の注意点と同意の方法

発表申し込みの際には、次に示す「講演要旨執筆上の注意」を熟読の上、その内容を理解し、遵守するようお願いいたします。このことについての同意の意思表示は、申込書該当欄に氏名を記入 (入力) することで成立することとします。

・講演要旨執筆上の注意

2015 年 3 月現在、講演要旨の著作権につきましては、厳密な規定がありません。そこで、現段階では基本的には発表者の方に著作財産権があるものと判断します。一方、昨今の知的財産権をめぐる情勢から見て、送付いただいた講演要旨に図の転載許可が得られていないものや、文献の引用が不十分なものがあると、問題が生じる可能性があります。従いまして、以下の点についてご注意の上で執筆下さるようお願いいたします。なお、これらに照らし合わせて問題があると判断された講演要旨原稿については、原稿受付後であっても再提出を求める場合があります。

- 1) 既存の出版公表物などに対する知的財産権へのいかなる侵害も含まないこと。
- 2) 他から転載されている全ての図表について、転載許可を得ていること。
- 3) 他の論文等の引用がある場合には、当該文献を全て明記する。引用形式としては、「竹内ほか (2005) 第四紀研究, 44, 371-381.」などのように、引用箇所が判別できる限りにおいて簡略化して構わない。
- 4) 日本第四紀学会の名誉を傷つけ、第四紀研究の信用を毀損する盗用データ、捏造データ、その他、当学会の倫理憲章に反するものを含まないこと。
- 5) 講演要旨についての問い合わせ、苦情、紛争などが発生した場合、発表者はすべての責任を負うこと。

【INQUA 名古屋大会でポスター発表を行った方へ】

第四紀学会 2015 年大会 (早稲田大会) の一般研究発表と、INQUA 名古屋大会の発表に同一のテーマで申し込む場合は、その内容が重複しないように (二重投稿とならないように) 注意してください。これを避けるために、また INQUA 大会の成果を学会内で共有することを目的として、早稲田大会の会場では INQUA 大会で使用したポスターの再掲示のスペースを準備することにしました。ポスターの掲示方法等につきましては第四紀通信 6 月号と学会ホームページに順次掲載しますのでご確認ください。

◆ 2014 年学会賞・学術賞受賞者講演会報告

小林達也



学会賞・学術賞受賞者講演会の会場の様子

2015年2月1日(日)、東京大学理学部2号館講堂にて、日本第四紀学会2014年学会賞・学術賞受賞者講演会が開催された。講演者は、学会賞を受賞された小野有五会員と齋藤文紀会員、学術賞を受賞された池原 研会員、高原 光会員であった。

小野会員は「東アジアにおける氷期・間氷期の気候変化と地形発達の研究と環境保全に関する実践的研究」というタイトルで、氷河地形とその堆積物の詳細な研究が評価された。講演では、氷期・間氷期サイクルという長い年月によって自然環境が形成されてきた事を研究されてきた経験より、水系を日本海から太平洋に大きく流路変更する千歳川放水路計画とシマフクロウの保全を取り上げ、昨今の人間活動による一方的な自然環境の改変に対して問題提起をされた。また、放射能廃棄物の処理に10万年の月日を要する事を10万年スケールの氷期・間氷期サイクルを例に挙げ、安易な話ではない事を指摘された。

齋藤会員は「日本列島及びアジアの大陸棚から沿岸平野の地質と後期第四紀の古環境に関する一連の研究」というタイトルで、最終氷期最盛期以降の沖積層堆積のシステムに関する研究が評価された。齋藤会員はアジア各国での現地の研究者との共同研究を精力的にこなされ、モンスーン地域の三角州の発達過程を明らかにされた。他方、中国の一部の河川ではダム開発等によって土砂の供給が不足している点に触れられ、人間活動による一方的な開発は自然の地形発達を大きく改変させることだと改めて実感させられた。

池原会員は「日本周辺海域における最終氷期から現在に至る海洋環境変動と堆積作用に関する一

連の研究」というタイトルで、海底堆積物の調査から最終氷期以降の海洋環境変動の研究が評価された。講演の中でも特に、海底堆積物中に挟まれる火山灰と陸上に堆積する火山灰から編年が可能になり、地震や津波の発生履歴を明らかにできる可能性について、大変強い関心を抱いた。古地震研究に対する社会の関心は2011年東北地方太平洋沖地震で津波堆積物が注目されて以降高まっており、今後の成果に期待がかかる研究である。

高原会員は「花粉分析に基づく後期更新世以降の東アジア植生史研究への貢献」というタイトルで、花粉分析による後期更新世の環境変遷を詳細に明らかにされた事が評価された。氷期・間氷期という寒冷と温暖のサイクルの中での植生の変化を時間軸と空間軸双方から突き止めることで、同じ日本国内であっても植生は地域毎に異なる経緯をたどってきた点に興味を湧いた。

本講演では、学会を牽引してきた諸先輩方の研究成果とその背景を学ぶことができた。私は第四紀学と社会、第四紀と人間活動という視点で聴講させて頂いた。特に印象深く残ったのは、小野会員から、環境問題や自然災害に対して、双方の領域を扱う第四紀学研究者という立場から社会に対して政策提言できる可能性を提案された事だ。

最後に、今回の講演会には70名弱が参加され、会場は熱気に包まれたが、若手研究者や学生の参加数が少なかった。これは地球惑星科学全体の課題でもあるが、昨年の御嶽山噴火ではマスコミから「研究者の不足」が指摘される中で、第四紀学会も若手養成を進めると同時に、研究成果を社会に還元していかねばならないと感じた。

◆**第四紀学会講習会のお知らせ**
第3回放射性炭素年代測定室ワークショップ

日 程：2015年5月20日（水）～23日（土）

場 所：東京大学 総合研究博物館（20～22日）・筑波大学研究基盤総合センター（23日）

定 員：20名程度

参加費：無料

主 催：東京大学 総合研究博物館 放射性炭素年代測定室・筑波大学 研究基盤総合センター応用加速器部門

共 催：東京大学 タンデム加速器研究施設、日本第四紀学会

参加条件：労災保険または傷害保険に加入していること。

参加申込み：[nendai\(at\)um.u-tokyo.ac.jp](mailto:nendai(at)um.u-tokyo.ac.jp) までメールでご連絡ください。

問い合わせ：東京大学 総合研究博物館 放射性炭素年代測定室 米田 穰

〒113-0033 東京都文京区本郷3-7-1

電話：03-5841-2483/ FAX：03-5841-8451

E-mail：[nendai\(at\)um.u-tokyo.ac.jp](mailto:nendai(at)um.u-tokyo.ac.jp)

ホームページ：<http://c14.um.u-tokyo.ac.jp>

ワークショップ内容（予定）：

- ・5月20日（1日目）10:00～17:00
実習 コンパクトAMSの見学
講習 放射性炭素年代測定の実践と問題
- ・5月21日（2日目）10:00～17:00
講義 較正年代の推定と問題
講義・実習 前処理プロトコル
- ・5月22日（3日目）10:00～16:15
講義・実習 放射性炭素年代のベイズ推定
- ・5月23日（4日目）10:00～15:00
筑波大学研究基盤総合センター応用加速器部門の見学（午前中のみ参加も可、現地集合・解散）
<http://web2.tac.tsukuba.ac.jp/uttac/>
 - ・EA+ 炭素試料自動処理装置の見学と実習
 - ・GC-AMS 試料処理装置の見学
 - ・CO₂ ガス導入型AMSの見学

1～3日目は東大本郷キャンパスで、4日目は筑波大学で開催いたします。

部分参加も可能ですので、その場合は参加希望の日程を明記して下さい。

定員オーバーの場合は、全日程参加者を優先させて頂きますのでご容赦ください。

◆国際第四紀学連合第 19 回大会にかかる普及講演会・特別展示のご案内

2015 年 7 月 27 日 (月) から 8 月 2 日 (日) にかけて名古屋にて開催されます国際第四紀学連合第 19 回大会を機に、一般の方々にも第四紀学を広く知って頂くことを目的として、博物館等における普及講演会や第四紀学関連資料の特別展示を計画しています。一部、未定な所がありますが、ほぼ内定した企画について、本学会会員のみなさまにお知らせ致します。

1. 名古屋市科学館サイエンスホールにおける普及講演会

日 時：2015 年 7 月 5 日 (日) 13:50 ~ 16:30

場 所：名古屋市科学館 サイエンスホール (350 人程度収容可能)

テーマ：「第四紀学で読み解く地球の歴史」(仮題)

主 催：国際第四紀学連合第 19 回大会組織委員会、日本第四紀学会、名古屋市科学館

参加費：無料。参加を希望される方は、往復はがきに「住所」、「氏名」、「電話番号」及び「参加される人数」を記入して学会事務局へお送り下さい。

担 当：堀 和明 (名古屋大学)、吾妻 崇 (産総研)

2. 名古屋大学野依記念学術交流館における普及講演会 (1 日目)

日 時：2015 年 7 月 25 日 (土) 14:00 ~ 17:00

場 所：名古屋大学野依記念学術交流館 2F コンファレンス・ホール

テーマ：「第四紀学研究から明らかとなった地球環境」(仮題)

主 催：名古屋大学年代測定総合研究センター、名古屋大学博物館、
国際第四紀学連合第 19 回大会組織委員会、日本第四紀学会

参加費：無料。事前申込みはありませんので、直接会場へお越し下さい。

担 当：中村俊夫 (名古屋大学年代測定総合研究センター)、堀 和明 (名古屋大学)

3. 名古屋大学野依記念学術交流館における普及講演会 (2 日目)

日 時：2015 年 7 月 26 日 (日) 14:00 ~ 17:30

場 所：名古屋大学野依記念学術交流館 2F コンファレンス・ホール

テーマ：第四紀年代学、古気候学、考古学が解き明かす人類進化史の真相
ーネアンデルタールの消滅とホモ・サピエンスの拡散ー

主 催：名古屋大学博物館、名古屋大学年代測定総合研究センター、
国際第四紀学連合第 19 回大会組織委員会、日本第四紀学会

参加費：無料。事前申込みはありませんので、直接会場へお越し下さい。

担 当：門脇誠二 (名古屋大学博物館)

4. 名古屋大学博物館におけるパネル・標本の展示

期 間：2015 年 7 月 4 日 (土) ~ 7 月 26 日 (日)

場 所：名古屋大学博物館 2F エントランスホール

内 容：「第四紀における人類進化の考古学研究」

(名古屋大学が調査したアフリカ石器時代遺跡の石器標本) ほか

入場料：無料

5. 三重県総合博物館における普及講演会

日 時：2015 年 7 月 11 日 (土) 13:30 ~ 15:30

テーマ：「東海層群の昆虫化石」

場 所：三重県総合博物館 レクチャールーム (収容定員 80 名程度)

参加費：無料

主 催：国際第四紀学連合第 19 回大会組織委員会、日本第四紀学会、三重県総合博物館

担 当：中川良平 (三重県立博物館)・森 勇一 (金城学院大学)

6. 三重県総合博物館における特別展示

期 間：2015年7月11日(土)～8月30日(日)

場 所：三重県総合博物館 企画展示室

テーマ：特別展示「あんな虫、こんな虫、そんな虫 ～身近なちいさなきものたち～」

(特別展示でコラムとして東海層群の昆虫化石を展示予定)

入場料：(未定)

講演プログラム等の詳細につきましては、学会ホームページ及び「第四紀通信」第22巻3号(2015年6月発行)に掲載する予定です。

◆国際第四紀学連合第19回大会開催への寄付金について

お詫びと訂正

平成26年12月10日付けにて、「国際第四紀学連合 (INQUA) 第19回大会 (2015年) 開催への募金のお願い」を会員の皆様にお送り致しましたが、同封しました募金の要領の説明に誤りがありました。ここに謹んでお詫びを申し上げます。

誤りについて

募金要領の説明 (国際第四紀学連合 (INQUA) 第19回大会開催支援募金の募金方法について) において、2つの募金方法を説明しましたが、そのうちの1) JNTO (日本政府観光局) 寄付金交付金制度による場合の説明が誤っておりました。注1に平成23年度税制改正による「税額控除制度」について述べられていますが、JNTOはその対象となる公益社団法人等に指定されておりました。従って注1を削除いたします。同様の趣旨が文頭の2～4行目に書かれていますが、これも削除いたします。実際には、JNTOの寄付金交付金制度をご利用頂くと、注2の通りの課税優遇措置が受けられます。これは上記「税額控除」ではなく、特定寄付金として『寄付金控除』を受けることになり、所得控除の中で扱われることとなります。

齋藤文紀

◆電子付録をご活用ください

第四紀研究では、掲載原稿の内容の一部をなす電子ファイル (電子付録) を受付けております。議論を裏付けるデータの詳細を公表する場としてご活用ください。

電子付録は、以下のウェブサイトからダウンロードできます。

<http://quaternary.jp/journals/data.html>

◆日本地球惑星科学連合 2015 年大会プログラム (暫定版)

日本地球惑星科学連合 2015 大会が、下記の日程で開催されます。年を経る毎に連合大会は学際的研究交流の場として重要度は増しており、2015 年大会の発表数は約 3900 件です。皆様の積極的な参加を期待しています。

- ・期日：2015 年 5 月 24 日 (日)～5 月 28 日 (木)
- ・場所：千葉県 幕張メッセ国際会議場、アパホテル & リゾート東京ベイ幕張
- ・大会詳細：<http://jpgu.org/meeting/index.htm> (各セッションの日程と会場確認ができます)
- ・事前参加登録受付期間 2015 年 1 月 8 日 (木)～5 月 12 日 (火) 17:00
- ・予稿 PDF の WEB 公開 2015 年 5 月 14 日 (木)

■第四紀関係オーラルセッション (一部抜粋)

日時* > セッション記号：セッション名 (会場)

* AM1-1～1-2 = 9:00～10:45、AM2-1～2-2 = 11:00～12:45、
PM1-1～1-2 = 14:15～16:00、PM2-1～2-2 = 16:15～18:00

太字は第四紀学会開催 (主催・共催) セッション、下線は PAGES 関連セッション

- 5 月 24 日 AM1-2～AM2-2 > **H-QR23：ヒトー環境系の時系列ダイナミクス (101A)**
- 5 月 24 日 AM1-1～AM2-2 > **M-IS25：津波堆積物 (201B)**
- 5 月 24 日 AM1-1～AM2-2 > S-GL39：年代学・同位体 (A03)
- 5 月 24 日 PM 1-1～PM 2-2 > O-01：ジオパークへ行こう (IC)
- 5 月 24 日 AM1-2～PM 2-2 > S-EM34：地磁気・古地磁気・岩石磁気 (102A)
- 5 月 24 日 AM1-1～PM 2-2 > **A-HW27：流域の水及び物質の輸送と循環 (301B)**
- 5 月 24 日 PM 1-2～PM 2-2 > **H-SC24：人間環境と災害リスク (101B)**
- 5 月 25 日 AM1-2～AM2-2 > S-GL38：下部～中部更新統境界 GSSP (102B)
- 5 月 25 日 PM 1-1～PM 2-2 > **M-IS23：ジオパーク (101B)**
- 5 月 26 日 PM 1-1～PM 2-2 > A-CC29：アイスコアと古環境変動 (301A)
- 5 月 27 日 AM1-1～PM 1-1 > H-CG35：堆積・侵食と地球表層環境 (105)
- 5 月 27 日 PM 2-1～PM 2-2 > **S-SS28：活断層と古地震 (103)**
- 5 月 28 日 AM1-1～PM 2-2 > **S-SS28：活断層と古地震 (A03)**
- 5 月 28 日 AM2-1～PM 2-2 > H-GM02：地形、Geomorphology (101B)
- 5 月 28 日 AM2-1～PM 2-2 > M-IS34：古気候・古海洋変動 (301A)

■セッションに付随するポスターは、2 階ポスター会場で開催されます。

ポスターは発表日に終日掲載され、コアタイムは 18:15-19:30 です。希望者にはポスター 1 件につき 3 時間の口頭説明時間が与えられます。

■第四紀学会単独・主催セッション

3 月 12 日現在での暫定的発表プログラムあるいはリストを以下に記載します。紙面節約のため筆頭発表者のみ記されています。発表順などの詳細プログラムは現在編成中です。確定したプログラムは 3 月 30 日に大会 Web で公開されます。オーラル発表数には限りがあるため、ポスター発表へ移動となるものもありますのでご確認ください。

●H-QR23 『ヒトー環境系の時系列ダイナミクス』

オーラルセッション：5 月 24 日 (日) 10:00～12:45 (会場：101A)

- 10:00-10:15 宮地良典ほか：千葉県北部東京湾岸の沖積層オールコアボーリング対比 (概報)
- 10:15-10:30 小松原 純子：九十九里平野の沖積層埋没谷の分布
- 10:30-10:45 岡崎 浩子ほか：地中レーダ (GPR) 探査による蛇行州の 3 次元構造解析—愛知県矢作川の例
10:45-11:00 <休憩>
- 11:00-11:15 丹羽 雄一：三陸海岸南部・陸前高田平野完新統の堆積過程から推定される長期的な沈降

5. 11:15-11:30 風岡 修ほか：2011年東北地方太平洋沖地震時の香取市与田浦での液状化—流動化のメカニズム：与田浦トレンチの調査から
6. 11:30-11:45 七山 太ほか：屋久島北東部、小瀬田海岸付近に認められる7.3ka鬼界カルデラ噴火津波の痕跡の成因と保存過程に関する仮説
7. 11:45-12:00 中村 俊夫ほか：日本の低湿地遺跡から発掘された木材のC¹⁴年代と年輪年代の比較
8. 12:00-12:15 平田 景都ほか：湖底堆積物中の珪藻群集組成に見られる日本の山岳湖沼の富栄養化トレンド
9. 12:15-12:30 大上 隆史：佐渡島大佐渡西岸北部における海成段丘を横断する河川群の河床縦断形

12:30- ポスター3分発表（希望者のみ）

1. 12:30-12:33 石井 祐次：泥炭層の強熱減量を用いた石狩低地の古洪水復元
2. 12:33-12:36 大井 信三ほか：茨城県中部・友部丘陵で見いだされた古期ローム層と風成砂層
3. 12:36-12:39 野口 真利江 ほか：東京湾におけるカキ礁の成長と珪藻群集—特に付着性珪藻の Amphora 属に着目して

● H-QR23 『ヒト—環境系の時系列ダイナミクス』

ポスターセッション：5月24日（日）（会場：2階ポスター会場）

1. 古山 精史朗ほか：房総半島東部沿岸における反射法音波探査
2. 中島 礼ほか：九十九里浜平野南部における沖積層の層序と基底地形
3. 石井 祐次：泥炭層の強熱減量を用いた石狩低地の古洪水復元
4. 宮崎 真由美 ほか：三陸海岸北部の最終間氷期海成段丘の被覆層中に認められるテフラの同定・対比
5. 山市 剛 ほか：東北地方三陸海岸南部、山田平野における完新世の古環境と地殻変動
6. 石原 武志 ほか：会津盆地東部喜多方市塩川における盆地地下堆積物と第四期後期テフラ
7. 大井 信三ほか：茨城県中部・友部丘陵で見いだされた古期ローム層と風成砂層
8. 山田 圭太郎ほか：福井県水月湖で新たに掘削されたSG14コアの層相と対比
9. 野口 真利江 ほか：東京湾におけるカキ礁の成長と珪藻群集—特に付着性珪藻の Amphora 属に着目して

● S-SS28 『活断層と古地震』

オーラルセッション：5月27日（水）16:15～18:00（会場：103）

5月28日（木）9:00～18:00（会場：A03）

ポスターセッション：5月27日（水）18:15～19:30（会場：2階ポスター会場）

【オーラル or ポスター希望】

1. Fantong Emilia Bi ほか：Reevaluated age of the latest activity of Ushikubi fault with ESR method using calcite proportion in calcareous gouge
2. 石村 大輔：2014年11月22日長野県北部の地震（Mw 6.2）にともなって出現した地表地震断層
3. 島崎 邦彦：活断層の長さから推定する地震モーメント
4. 桑原 保人：日本列島の活断層群の長期的地震活動シミュレーション
5. 石橋 克彦：南海トラフ巨大地震の「安政型」と「宝永型」について
6. 林 愛明ほか：伊豆半島における新発見の活断層：狩野川断層（新称）の変動地形と最近活動性
7. 中埜 貴元：2014年長野県北部の地震に伴い出現した地表地震断層における地中レーダ探査
8. 勝部 亜矢ほか：2014年11月22日長野県北部の地震（Mw 6.2）で生じた地表地震断層の分布と変位量
9. 今井 啓文ほか：式根島における隆起貝層からみた後期完新世の隆起：1498・1605年の大津波の波源域に関する含蓄
10. 藤原 治ほか：千葉県館山市の海浜堆積物から推定した元禄地震の前の関東地震
11. 小松原 琢：集落別死者率から推定した安政飛越地震（1858）の震央
12. 北村 晃寿ほか：地震性隆起の証拠と断層モデルに基づく伊豆半島南東沖の海底活断層の検討
13. 林 愛明ほか：2014年 Mw 6.2 長野県北部地震の震源断層—神城断層の古地震の予備調査
14. 伊藤 忍ほか：会津盆地東縁および西縁における反射法地震探査
15. 浜田 昌明ほか：能登半島北方海域の活断層の最新活動時期とその断層モデル
16. 任 治坤：Offset clusters on the Haiyuan Fault and its implications to earthquake rupture pattern
17. 内田 康人ほか：高分解能音波探査による十勝平野断層帯南部、光地園断層海域延長部の浅部構造調査
18. 八木 雅俊ほか：布田川—日奈久断層帯海域延長部における高分解能地層探査結果

19. 渡辺 満久：三陸海岸北部を隆起させる海底活断層
20. 鈴木 康弘：2014 年長野県神城断層地震と活断層－何を学ぶべきか？－
21. 竹村 恵二ほか：別府－万年山断層帯（大分平野－由布院断層帯東部）における重点的な調査観測
22. 竹内 章：富山県富山市中心市街地における呉羽山断層の地表トレースと最新活動
23. 佐藤 比呂志ほか：庄内平野の伏在活断層
24. 村岸 純：1855 年安政江戸地震における千葉県域の被害
25. 松浦 律子：関東地方の近世以降 400 年間の被害地震について
26. 石山 達也ほか：地殻構造探査により明らかになった富山堆積盆地の活断層の構造的特徴
27. 越谷 信：北上低地帯西縁断層帯中部の浅部地質構造
28. 阿部 信太郎ほか：三浦半島断層群および鴨川低地断層帯海域延長部における海底活断層調査
29. Wang Maomao ほか：Active thrust faulting and paleoseismic records of the Longquanshan Fault in the interior of the Sichuan Basin, China
30. 小林 健太ほか：長野県白馬村神城断層周辺の活断層露頭

【ポスター希望】

1. 林 愛明ほか：2014 年長野県北部地震（Mw6.2）の地表地震断層の構造特徴
2. 吉岡 敏和ほか：九州北部、小倉東断層および福智山断層の古地震調査
3. 松下 小春ほか：沿岸域における活断層調査「三浦半島断層群」－高分解能地層探査手段
4. 坂本 泉ほか：沿岸海域における活断層調査「鴨川低地断層帯」、高分解能地層探査結果
5. 吉田 春香ほか：佐賀平野北縁断層帯の活動性
6. 堤 浩之ほか：中央構造線断層帯（金剛山地東縁－和泉山脈南縁）の活動履歴調査
7. 八木 雅俊ほか：布田川－日奈久断層帯海域延長部における断層変位の形態的特徴
8. 近藤 久雄ほか：糸魚川－静岡構造線活断層系・松本盆地東縁断層北部における地震時変位量の復元調査
9. 粟田 泰夫：DEM から作成する変動地形判読のためのステレオ等高線図
10. 谷口 薫ほか：糸魚川－静岡構造線活断層系中部、茅野断層におけるボーリング調査および地中レーダ探査
11. 金 幸隆ほか：三浦半島南部、最近 4 回の関東地震の発生履歴と地殻変動
12. 原田 智也ほか：アンケート調査に基づく 1946 年南海地震の震度分布・被害分布
13. 阿部 恒平ほか：1896 年陸羽地震・横手盆地の断層露頭
14. 澤 祥ほか：2014 年長野県北部の地震（神城断層地震）で現れた地表地震断層と既存活断層の位置関係
15. 清水 龍来ほか：河成段丘面の長波長変形に基づく断層構造を考慮した地形発達の解明－高田平野東縁および越後平野東縁地域の事例－
16. 廣内 大助ほか：2014 年長野県北部の地震（神城断層地震）に伴う地表地震断層と活断層
17. 大谷 具幸ほか：前期更新世までに活動を停止した断層における破碎帯の特徴
18. 向井 理史ほか：西山断層帯嘉麻峠区間における群列ボーリング調査と高分解能 S 波反射法地震探査データの再解析
19. 楳原 京子ほか：小倉東断層延長海域における高分解能マルチチャンネル音波探査
20. 戸田 茂ほか：名古屋市内を横切る堀川断層における S 波反射法地震探査
21. 田力 正好ほか：筒賀断層帯およびその周辺地域の活断層の分布と断層変位地形：中国地方西部の活断層密集地域に発達する長大活断層の一例
22. 小林 浩ほか：斜め空中写真から推定した断層変位量について～長野県北部の地震を例に
23. Yan Bing ほか：Recurrence interval analysis along the strike-slip Xianshuihe-Xiaojiang Fault System: by Coulomb stress change history
24. 新井 麗ほか：日本海における断層分布
25. 和田 茂樹ほか：重力異常からみた新潟平野東縁断層帯の特徴
26. 谷川 亘ほか：歴史南海地震災害の理解に向けた高知県沿岸の海底構造物の形成過程

◆日本第四紀学会 2014 年度第 2 回評議員会議事録

日時：2015 年 2 月 1 日（日）10:00～13:00
 場所：東京大学本郷キャンパス 理学部 2 号館 第二講義室

出席：小野会長、吾妻、池田、卜部、岡崎、北村、久保、小荒井、斎藤、里口、澤井、白井、高原、中村、藤原、水野、宮内、山崎、吉永

幹事：小森、齋藤めぐみ、米田

欠席：阿部、出穂、植木、海津、奥村、河村、工藤、小池、佐藤、須貝、鈴木、竹村、辻、長橋、八戸、松浦、松下、三田村、本川、安田、横山、渡邊

水野清秀幹事長の司会で、小野会長のあいさつの後、久保純子評議員を議長に選出した。定足数確認（出席者 19 名、委任状 18 通）後、配布資料に基づき、下記の審議が行われた。

＜報告事項＞

1. 2014 年度事業中間報告

関係幹事・委員から以下の報告が行われた。

1-1. 庶務 1（庶務幹事：北村）

1) 会員動向（2015 年 1 月 25 日現在）：正会員 1277 名（うち学生・院生会費会員 80 名、海外会員 12 名を含む）、名誉会員 18 名、賛助会員 10 社。逝去会員：首藤次男 会員 坂本 勉 会員。

2) 総会・評議員会・幹事会の開催：2014 年度第 1 回評議員会を 2014 年 9 月 6 日に東京大学大気海洋研究所で開催した（出席者 26 名、委任状 14 通。議長：須貝俊彦 会員）。2014 年度総会を 2014 年 9 月 7 日に東京大学柏キャンパス・環境棟 FS ホールで開催した（出席正会員数 75 名、委任状 74 通、議長：鈴木毅彦 会員）。幹事会は、2014 年 9 月 6 日、9 月 7 日、10 月 26 日、12 月 27 日と計 4 回開催し、臨時幹事会を 11 月 24 日に開催した。

3) 東京大学大気海洋研究所所長から、日本第四紀学会の提出した共催願に記された共催内容と本学会ホームページに掲載された共催内容が不一致であることに関する申し立てがあり、ホームページの箇所を早急に修正するとともに、所長にお詫び状を出すこととした。

4) 松葉千年会員より、「The Miracle Topography of Suzuka」と「第四紀の新定義と東海層群模式露頭」の資料の送付があった。

5) 木越邦彦名誉会員を偲ぶ会に第四紀学会から供花をした。世話人の福岡孝昭 会員に、次号第四紀通信への報告記事または追悼文の執筆を依頼した。

6) 北淡国際活断層シンポジウム 2015 の後援依頼があり、これを承諾した。

7) 第 19 回震災対策技術展の後援依頼があり、こ

れを承諾した。

8) 日本土壌肥料学会からの「土壌教育に関する要望書」提出にあたって、第四紀学会に賛同の依頼があり、これを了承した。

9) 日本生態学会・日本ベントス学会から依頼のあった「沖縄県の辺野古・大浦湾における海域埋め立て計画についての要望書提出について（依頼）」について審議し、提出しないこととした。

10) 資源エネルギー庁から地層処分技術 WG 再開に伴う委員の再任についての依頼があり、対応を臨時幹事会で審議し、回答文書を送付した。

11) 評議員会案内と学会賞等選挙書類を評議員へ送付した。

12) 2015-2016 年度評議員選挙管理委員会の設置のため、委員の受諾を問い合わせることとした。

13) 日本地質学会からの依頼で「層序単元登録審査委員会委員」として第四紀学会から長橋良隆 会員を推薦した。

14) 大学評価・学位授与機構からの国立大学教育研究評価委員会専門委員の候補者の推薦依頼があり、評議員に配信したが推薦はなかった。

15) 会費長期滞納者は次回評議員会までに未納入の場合は除籍とすることを確認した。

16) 日本原子力学会の日本第四紀学会の名称の不適切な使用に関して、経緯を学会員に周知し、日本原子力学会に質問状を送付した。

17) 第四紀学と第四紀学会広報パンフを次回の JpGU までに作成することとした。

庶務 2（庶務幹事：佐藤）

1) 北田奈緒子氏（地域地盤環境研究所）から壇原徹他（2010）琵琶湖 1400m 掘削試料の編年：フィッシュトラック年代とテフラ同定の再検討、第四紀研究、49-2 の図 2 および竹村恵二他（2010）琵琶湖における過去 5 万年間の火山灰と堆積物、第四紀研究、49-3 の図 1・3・4・5 の転載許可願（転載先：『地域の地質』『新関西地盤—近江盆地—』関西圏地盤研究会）があり、これを許可した。

2) 紀藤典夫氏（北海道教育大学函館校）から貝塚爽平（1987）将来予測と第四紀研究、『百年・千年・万年後の日本の自然と人類』（第四紀学会編、古今書院）の図 2 の転載許可願（転載先：『サロベツ湿原と稚咲内砂丘林帯湖沼群』北海道大学出版会）があり、古今書院にも転載許可申請を行うことを条件として許可した。

3) 株式会社雄山閣から辻 誠一郎（1997）縄文時代の移行期における陸上生態系、第四紀研究、36-5 の図 1 の転載許可願（転載先：『別冊季刊考古学』雄山閣）があり、これを許可した。

4) 田島靖久氏から田島靖久他(2013)テフラ層序による霧島火山、新燃岳の噴火活動史、第四紀研究、52の図3の転載許可願(転載先:「霧島火山群、最近3万年間のテフラ模式露頭の提案」『火山』日本火山学会)があり、これを許可した。

5) 伊藤大樹氏(技報堂出版)から江坂輝弥(1972)自然環境の変貌—縄文土器文化における、第四紀研究、11-3の図1の転載許可願(転載先:『逃げないですむ家とまちをつくる』技報堂出版)があり、これを許可した。

6) 中島 礼氏から森脇 広(1979)九十九里浜平野の地形発達史、第四紀研究、18の図9の転載許可願(転載先:『茂原平野の地質』(5万分の1地質図幅))があり、これを許可した。

7) 三木いずみ氏(日経BP社)から松田時彦他(1968)活断層、第四紀研究、7-4の図1およびMachida, H. (1999) Quaternary Widespread Tephra Catalog in and around Japan: Recent Progressの図1の転載許可願(転載先:『変動地形学入門』日経BP社)があり、これを許可した。

8) 遠藤邦彦氏から安藤他(1996)武蔵野台地北部の開析谷沿いにおける埋没地形面群、第四紀研究、35の図6および鳴井幸彦他(2006)越後平野における砂丘列の形成年代と発達史、第四紀研究、45の図1・3および松島義章(2010)完新世における温暖種が示す対馬海流の脈動、第四紀研究、47の図1および青木かおり他(2008)鹿島沖海底コアMD01-2421の後期更新世テフラ層序、第四紀研究、47の図2および石綿しげ子(2004)東京湾北部沿岸域の沖積層と堆積環境、第四紀研究、43の図5および町田 洋(2009,2013)地球史の現代:第四紀の研究(概説)、デジタルブック最新第四紀学の図1の転載許可願(転載先:『日本の沖積層—未来と過去を結ぶ最新の地層—』富山房インターナショナル)があり、これを許可した。

9) 石森孝志氏(八王子市長)から小林達雄他(1971)野川先土器時代遺跡の研究、第四紀研究、10-4の図4および表紙の転載許可願(転載先:『新八王子市史』通史編1 原始・古代、八王子市)があり、これを許可した。

10) 2015年学会賞選考委員候補者の評議員による投票を行い、以下の5名を選出した。池原 研(地理学)・高原 光(植物学)・兵藤政幸(地球物理学)・竹村恵二(地質学)・海津正倫(地理学)、次点:須貝俊彦(地理学)、各会員。

11) 2015年論文賞選考委員会委員候補の評議員による投票を行い、以下の5名を選出した。鈴木毅彦(地理学)・那須浩郎(植物学)・中川 毅(地質学)・植木岳雪(地理学)・吉永秀一郎(土壌学) 次点:澤井裕紀(古生物学)、各会員。

12) 2015年学会賞・学術賞、論文賞・奨励賞の推薦募集を行った(2015年1月31日締切)。

1-2. 編集(編集幹事:卜部、藤原)

2014/9/6(柏大会)以降について

1) 編集状況第四紀研究第53巻第5号(論説2編(特集号その2)、短報1編、講座1編、書評1編、34頁)、第6号(学会賞記念論文1編、論説1編、短報1編、講座1編、書評1編、57頁)を刊行した。第53巻の総頁数は334頁である。

2) 第54巻第1号(論説1編、短報2編、講座1編、書評1編、39頁)を編集した(2月上旬刊行予定)。第2号は現在編集中。

3) 編集委員会は、第1回を平成25年9月27日、第2回を11月22日に開催。第3回を1月24日に開催。

4) 2014年の投稿数は30件(論説10(特集号2)、短報8(特集号2)、総説3(特集号、受賞記念各1)、資料1、書評など8)であった。

なお、2013年は合計38編(論説・短報18(うち特集号4)、受賞記念論文5、講座7、書評など8)。1月19日現在の手持ち原稿は、11編(論説6、短報2、総説1、資料1、書評1)である。

5) 柏大会の特集号について

シンポII「更新世・完新世の資源環境と人類:小野 昭ほか」が進行中(11編程度を予定)。

シンポIV「東アジア~北西太平洋における第四紀の気候と環境変動:公文富士夫ほか」についても特集号となる見込み(調整中)。

1-3. 会計(会計幹事:岡崎)

1) 2014年度会計中間報告

2) 広報書記の作業費を承認した。

3) 広報作業のプリンターの買い替えを承認した。

1-4. 広報(広報幹事:齋藤めぐみ)

1) 広報委員会を組織して、第四紀通信の編集およびホームページの維持管理を行った。

2) より円滑に広報活動を行なうために、10月よりホームページ担当の広報委員を1名追加した。

3) 「第四紀通信」第21巻5、6号を編集し発行した。第22巻1号は近日中に発行予定。

4) 「第四紀通信」上記各号の電子版(pdf版)を、それぞれ発行前月の中旬に日本第四紀学会ホームページに掲載した。

5) 日本第四紀学会ホームページを通じて広報、情報提供、アウトリーチ活動等を行った。

6) 日本第四紀学会会員メーリングリストを通じて各種情報提供等を行った。

7) 日本第四紀学会評議員会メーリングリストおよび日本第四紀学会幹事会メーリングリストの管理を行った。

8) 学会HPの「だいよんきQ&A」の説明に「だ

いよんき Q&A 質問フォーム」の説明文を加えた。

1-5. 渉外 (渉外幹事: 吾妻、宮内)

1) 地球惑星科学連合関係

2015年地球惑星科学連合大会において第四紀学会は以下のセッションを提案し、承認された。

<主催 2件>

・H-QR23 ヒト-環境系の時系列ダイナミクス旧セッション「平野地域の第四紀層序と地質構造」は、「ヒト-環境系」と統合。

・S-SS28 活断層と古地震 (活断層学会と共同)

<共催 4件>

・A-HW27 流域の水及び物質の輸送と循環-源流域から沿岸域まで-

・H-SC24 人間環境と災害リスク

・M-IS25 津波堆積物

・M-IS23 ジオパーク

2) 自然史学会連合関係

12月8日自然史科学学会連合年次総会(東大ミュージックホール)が開催され、渉外幹事(宮内)が出席した。

<主な議題と報告>

・自然史連合主催講演会、2014年度は「自然史まつり in いばらき」の開催(11月23日(日)、第四紀学会から齋藤めぐみ会員がブース型体験教室「体験! わくわくミュージアム」を開いた)、2015年度は三重県立博物館にて11月頃開催予定。

・子供向け自然史本の出版(2015年2月)

・連合としての要望書・意見書の承認手続き

3) 平成27年度科学研究費助成事業関係研究成果公開促進費に関連して、「研究成果公開発表(B)」計画調書を提出した。

4) JpGUに学協会展示ブースを出展することとし、出展内容の詳細は渉外・企画幹事が検討することとした。

1-6. 行事企画 (出穂・小森・米田)

1) 2014年大会の若手発表賞の受賞者を決定し、リストを会員メーリングと学会HPと第四紀通信に掲載した。

2) 今後の同賞の通知は、受賞者への通知、会員メールでの受賞者の報告、HPへの掲載を可能な限り同時に行うこととした。受賞者数を目安として20%とする。また、審査票の項目を、審査基準を4か5段階にする。

3) 2014年大会事務局に会計報告を依頼し、LOCの引継ぎ物品を学会事務局に返却するよう連絡する。

4) 2015年早稲田大会の実施内容・スケジュールについて検討した。

8月29日

評議員会 10:00 ~ 13:00

ポスター口頭説明(希望者のみ) 13:30 ~ 14:30

ポスターセッション 14:30 ~ 16:00

表彰式及び懇親会(懇親会会場)

表彰式 16:30 ~ 17:00

懇親会 17:00 ~

8月30日

シンポジウム 9:30 ~ 12:30

総会 13:30 ~ 15:00

ポスターセッション 15:00 ~ 16:30(初日と同じ時間幅にする)

・発表形式はポスターのみで、ポスターは一人一件とし、順番は対象別にすることとした。

・若手・学生発表賞に関しては、口頭若手部門と口頭学生部門がないので、受賞率を上げることとした。

・INQUAの発表のポスターの展示用のスペースを設け、Abstractを要旨集に付録として掲載するようにINQUAと調整することとした。

・参加費・要旨集込みで2000円とすることとした。

・シンポジウムの詳細を次回幹事会までに準備することを連絡することとした。

5) 評議員会および受賞者記念講演会を2015年2月1日に東京大学本郷キャンパス理学部二号館・第二講義室で以下の通りに開催予定。

評議員会 10:00 ~ 13:00

受賞者記念講演会 13:30 ~ 17:00

経費: 講堂借料 10,000円

受付・会場アルバイト 32,000円

6) 第四紀学会にジオパークに関わる特別委員会を設置することとし、原案・委員(会員に限定)を目次邦康会員に11月末までに提案を提出いただき、幹事会で検討の後、次回の評議員会に同委員会の設置を諮ることとした。

7) 行事・企画委員会の委員の人選を幹事が行うこととした。

8) 2016年大会(60周年記念)の開催場所について意見交換した。

1-7. 法務委員会(斎藤)

1) 法務委員会から報告があった。

1-8. JpGU 学協会長会議(斎藤)

1) 10月16日に開催された第9回学協会長会議の報告があり、学協会長会議からユニオンセッション開催の提案があった。

2) 2016年のJpGUの開催場所については検討中。

3) AGU Fall Meetingにおける「Geoscience Japan」への出展とJpGU参加学協会との協力が報告された。

4) 公益認定等委員会事務局からの提言を受け、次年度よりJpGUフェローの推薦条件からJpGU会員であることを外すこととした。

1-9. JpGU 環境・災害対応委員会委員(卜部)

1) 田力会員の任期を次回のJpGU理事会(12月)までとし、卜部会員の任期の始まりを次回の

JpGU 理事会（12月）とすることを確認した。
2) JpGU 環境・災害対応委員会からのアンケートへの回答し、次年度のユニオンセッション「連合

は環境・災害にどう向き合っていくのか？」の開催を賛成、話題提供可能、総合討論で議論に参加できるかどうかは未定とした。

2. 2014年度会計中間報告（会計担当：岡崎）

日本第四紀学会

2014年度収支会計中間報告 （2014年12月31日現在）

収入の部				(単位：円)
科 目	予 算 額 ①	12月31日現在②	増 減 ② - ①	摘 要
会費収入	10,780,000	9,384,496	-1,395,504	
正会員会費収入	10,500,000	9,164,496	-1,335,504	通常会員会費 8,937,000円 学生会員会費 190,000円 海外会員会費 37,496円
賛助会員会費収入	280,000	220,000	-60,000	
誌代	1,800,000	984,826	-815,174	要旨集売上(450,000円)、定期雑誌購入、Back No
別刷代・超過頁代収入	500,000	258,358	-241,642	53巻4号～6号別刷代
雑収入	700,000	240,953	-459,047	2014年大会余剰金(125,318円)、JST、著作権料収入等
利子収入	5,000	585	-4,415	普通預金利息
広告料収入	0	0	0	
役員選挙積立金取崩収入	350,000	350,000	0	
INQUA対策積立金取崩収入	0	0	0	
名簿作成積立金取崩収入	0	0	0	
予備費積立金取崩収入	3,000,000	0	-3,000,000	
収入合計	17,135,000	11,219,218	-5,915,782	
前期繰越金	12,201,202	12,201,202	0	
合計	29,336,202	23,420,420	-5,915,782	

支出の部				(単位：円)
科 目	予 算 額 ①	12月31日現在②	増 減 ② - ①	摘 要
会誌発行費	6,000,000	924,052	-5,075,948	
印刷費	3,000,000	830,520	-2,169,480	第四紀研究 53巻4号～5号 各1,500部
編集費	1,500,000	0	-1,500,000	※年度末精算
編集人件費	1,200,000	0	-1,200,000	※年度末精算
別刷印刷費	300,000	93,532	-206,468	第四紀研究 53巻4号～5号
会誌・会報発送費	700,000	190,690	-509,310	第四紀研究 53巻4号～5号
会報発行費	850,000	459,895	-390,105	
印刷費	600,000	219,888	-380,112	第四紀通信 21巻4号～5号 各1,400部
編集費	50,000	1,007	-48,993	第四紀通信編集費
編集人件費	200,000	239,000	39,000	第四紀通信編集アルバイト代
大会運営準備金	300,000	0	-300,000	
巡検準備金	0	0	0	
講演会・シンポジウム費	100,000	0	-100,000	
予稿集印刷費	300,000	251,370	-48,630	2014年大会講演要旨集（本350部）
学会賞等顕彰費	200,000	249,339	49,339	副賞1名（50,000円）、賞状作成費
講習会費	50,000	0	-50,000	
通信費	300,000	291,783	-8,217	会費請求書発送郵税、事務通信費等
会議費	100,000	0	-100,000	
旅費・交通費	500,000	245,520	-254,480	幹事会・委員会等交通費
印刷費	450,000	303,512	-146,488	学会専用封筒、コピー代
業務委託費	2,300,000	1,026,000	-1,274,000	事務委託費概算払分
INQUA第19回大会準備費	3,000,000	0	-3,000,000	
INQUA対策費	0	0	0	
役員選挙費	700,000	0	-700,000	
名簿作成費	0	0	0	
INQUA対策積立金繰入支出	0	0	0	
役員選挙費積立金繰入支出	0	0	0	
名簿作成積立金繰入支出	300,000	300,000	0	
予備費積立金繰入支出	0	0	0	
研究委員会助成金支出	200,000	0	-200,000	
加盟学協会分担金支出	30,000	0	-30,000	
国際科学技術コンテスト協賛金支出	100,000	0	-100,000	
雑費	350,000	61,104	-288,896	振込手数料等
予備費	200,000	0	-200,000	
支出合計	17,030,000	4,303,265	-12,726,735	
次期繰越金	12,306,202	19,117,155	6,810,953	
合計	29,336,202	23,420,420	-5,915,782	

日本第四紀学会

貸借対照表
(2014年12月31日現在)

(単位：円)

借方		貸方	
科目	金額	科目	金額
流動資産		流動負債	
郵便振替	15,849,804	前受会費	27,000
小口現金	1,748,765		
普通預金	2,861,346	小計	27,000
現金(事務局)	54,240	正味財産	
未収金	30,000	名簿作成積立金	900,000
		役員選挙積立金	0
固定資産		INQUA対策積立金	0
定期預金	10,000,000	予備費積立金	10,500,000
		次期繰越金	19,117,155
		(前期繰越金)	12,201,202)
		(当期収支差額)	6,915,953)
		小計	30,517,155
合計	30,544,155	合計	30,544,155

財産目録
(2014年12月31日現在)

資産の部			(単位：円)
科目	摘要	金額	
郵便振替	郵便局(年会費振込専用口座)	15,849,804	
小口現金	編集書記手許金	1,748,765	
普通預金	みずほ銀行早稲田支店	2,660,606	
普通預金	三井住友信託銀行本店営業部	200,740	
現金	事務局手持ち金	54,240	
未収金	広告料(2007年)	30,000	
流動資産合計		20,544,155	
定期預金	三井住友信託銀行本店営業部	10,000,000	
固定資産合計		10,000,000	
合計		30,544,155	

負債の部			(単位：円)
科目	摘要	金額	
前受会費	2015年度以降年会費	27,000	
合計		27,000	

正味財産の部			(単位：円)
科目	摘要	金額	
名簿作成積立金	名簿作成積立金	900,000	
役員選挙積立金	役員選挙積立金	0	
INQUA対策積立金	INQUA対策積立金	0	
予備費積立金	予備費積立金	10,500,000	
次期繰越金		19,117,155	
	前期繰越金	12,201,202	
	当期収支差額	6,915,953	
合計		30,517,155	

3. 特別委員会

1) 組織改革委員会報告（幹事長：水野）

委員会はまだ発足していない。委員として、小野 昭（会長）、奥村晃史（副会長）、斎藤文紀（副会長）、水野清秀（幹事長）、北村晃寿（庶務幹事）各会員に2名程度の会員を加えて委員会を組織する予定である。10月24日を期限として委員の公募を行ったが、応募者はなかった。そのため、数名の会員に打診したが、承諾はまだ得られていない。評議員あるいは評議員からの推薦者で残りの委員を確定したい。

選挙制度検討委員会及び会員サービス向上検討委員会の答申に対する意見を11月30日を締切として募集したが、特に意見はなかった。柏大会時の評議員会並びに総会における両検討委員会答申に対する議論では、両検討委員会で指摘されている役員選挙における専門分野区分をINQUAの5つのCommissionに対応させるという案に特に反対意見がなかったことから、この区分を基準に、そこから評議員等を選ぶ幹事長試案を作成し、幹事会にて多少の議論を行った。当委員会では、役員選挙の基本となる研究分野区分と、会長、副会長、評議員などの選出方法ならびに役割案、研究委員会などとの連携を密接にする組織体制案を提示し、ある程度規約改正のたたき台となる段階までの案を年度内に作成する予定である。幹事会や評議員会で途中の試案段階のものを随時示し、意見を出示してもらうことにしている。

2) 国際第四紀学連合第19回大会組織委員会

2014年度上期(2014年8月～2015年1月)には、計8回(第20回～第27回)の幹事会を開催したほか、委託業者(JTB-COM、JYB-GMT)及び開催地各機関との打合せを行った。大会参加・発表予稿・参加補助等の登録システム構築にかかる検討及び確認を進めたほか、プレナリー講演の検討、巡検の準備、助成金申請・募金活動、ブース展示の検討等を行った。発表投稿受付を10月に開始し、INQUAの研究委員会及び国内の協力学協会などを通じて発表要旨投稿の呼びかけを実施した。発表要旨投稿の締切は、当初は12月20日であったが2015年1月8日に延期し、それに併せて参加補助申請の締切も同日に延長した。最終的な投稿数は、122のセッションに対して、2563件であった。巡検について、旅行業務委託先との案内者との間で詳細な行程と料金の調整を行い、参加登録の受付を12月20日から開始した。11月には愛知県と名古屋市を訪問し、両自治体からの後援を依頼した。そのほか、日本の第四紀学に関する

「Quaternary International」特集号の原稿募集を実施した。

■大会組織委員会幹事会の開催記録

(2014年度上期：2014年8月～2015年1月)

○第20回 2014年8月6日(水)

<広島大学東京オフィス>

主な議事：セッションの統廃合、プレナリー講演者の検討、展示ブースの検討、等。

(出席：斎藤、遠藤、奥村、小野、中村、吾妻、JTB-COM)

○第21回 2014年8月29日(金)

<日本学術会議>

主な議事：プレナリー講演者、展示ブースの検討、出版物の検討、等。

(出席：斎藤、奥村、遠藤、横山)

○第22回 2014年9月19日(金)

<JTB-COM 東京オフィス>

主な議事：参加補助登録システムの検討、アブストラクト査読システムの検討、等。

(出席：斎藤、遠藤、鈴木、吾妻、JTB-COM)

○第23回 2014年10月2日(木)

<JTB-COM 東京オフィス>

主な議事：登録システムの確認、愛知県等への訪問準備、等。

(出席：斎藤、遠藤、小野、吾妻、JTB-COM)

○第24回 2014年11月1日(土)

<広島大学東京オフィス>

主な議事：登録状況の確認、巡検準備状況の確認、プレナリー講演者の検討、等。

(出席：斎藤、遠藤、奥村、小野、兵頭、渡邊、鈴木、堀、吾妻、JTB-GMT、今井、JTB-COM)

○第25回 2014年12月6日(土)

<首都大学東京秋葉原サテライト>

主な議事：登録システム修正、発表予稿投稿締切延期の決定、ホテル予約システム、等。

(出席：斎藤、小野、渡邊、宮内、鈴木、出穂、堀、JTB-COM、JTB-GMT)

○第26回 2015年1月11日(日)

<首都大学東京秋葉原サテライト>

主な議事：登録状況確認、ホテル予約システム、等。

(出席：斎藤、奥村、遠藤、小野、中村、松浦、竹村、渡邊、鈴木、堀、JTB-COM、JTB-GMT)

○第27回 2015年1月25日(日)

<首都大学東京秋葉原サテライト>

主な議事：参加補助審査、等。

(出席：斎藤、遠藤、小野、竹村、渡邊、宮内、鈴木、出穂、堀、JTB-GMT)

3) 第23期第1回地球惑星科学委員会 INQUA 分科会 (奥村・斎藤)

2015 年年 1 月 5 日 (月) 15:00 ~ 17:00

日本学術会議 5-A (1) 会議室

出席：奥村・斎藤・木村・海津・北里・小嶋・佐竹・

原田、オブザーバー：吾妻 崇・太田陽子

・役員選考：奥村晃史委員長、斎藤文紀副委員長、原田尚美幹事を承認

・平成 27 年度代表派遣候補推薦：北里 洋氏、第 2 回国際層序学会議、7 月、グラーツ (オーストリア)。

・INQUA 名古屋大会日本代表選考。正代表：鈴木毅彦会員、副代表：小口 高会員を提案。

・INQUA 役員・フェロー等の推薦。町田 洋名誉会員を終身フェローに推薦。セカンドは中国。

・CMP 副委員長：横山祐典 (継続)、HABCOM 副委員長：出穂雅実、同メンバー：松井 章 (継続)、PALCOMM メンバー：阿部彩子 (継続)、SACCOM メンバー：熊井久雄 (継続)、TERPRO 副委員長：吾妻 崇 (継続) 各会員

・INQUA 執行部役員推薦。会長：奥村晃史会員 (イタリアがセカンド)、副会長：Zhengtang Guo 氏 (中国) をセカンド。

・INQUA 名古屋大会準備状況。斎藤副委員長より資料に基づいて報告。

・International Committee of Stratigraphy からの報告として前期更新世と中期更新世の境界を決定する模式地の状況について説明 (斎藤文紀会員)。

・2015 年 INQUA 執行委員会。1 月 26 日～28 日、ケープタウン (南アフリカ) で開催。奥村晃史副

会長参加。

<審議事項>

1) 通信による評議員会の開催の導入について審議し、その方針を了承した。これに関わる会則第 13 条の改正の詳細については次回幹事会で検討することとした。

2) 会費長期滞納者の除籍について審議し、27 名を除籍することとした。

3) 特別委員会「日本第四紀学会ジオパーク支援委員会」の設置について審議し、これを承認した。設定期間：2015 年 2 月 1 日から 2016 年 8 月 (大会) まで。

委員会の目的：自然環境の保全と賢明な利用を行い、人類社会の持続可能な発展を目指すジオパーク活動を、より質の高いものとするため、第四紀学的立場から支援する。

委員会の活動内容：

- ・従来のジオパーク、ジオパーク活動における第四紀学に関わる問題点を洗い出し、学会としてそれらに貢献する具体的な取り組みを検討する。

- ・ジオパークおよびジオパークを目指す地域に対して、学術的に支援する。

- ・学会員および一般市民に対して、第四紀学的な視点からジオパークの普及啓発を行う。

構成メンバー：浅野真希会員、岩本直哉会員、

植木岳雪会員 (委員長)、尾方隆幸会員、

川村教一会員、近藤 恵会員、橋詰 潤会員、

目代邦康会員。

◆日本第四紀学会 2014 年度第 5 回幹事会議事録

日時：2015 年 2 月 28 日（土）9:30～15:10
場所：駿河台キャンパス グローバルフロント 7 階
C4 会議室
出席：小野会長、北村、斎藤文紀、水野、米田
欠席：吾妻、出穂、卜部、佐藤、岡崎、奥村、小森、
斎藤めぐみ、藤原、宮内

<報告事項>

庶務（北村）

1. 産業技術総合研究所の地質調査総合センター（GSJ）の受託事業で NTT データ経営研究所から「地質情報の利用状況に関する調査」への協力依頼があり（20150216）、回答した（20150219）。
2. 2014 年度第 2 回評議員会議事録を評議員に配布した（20150213）。
3. 選挙管理委員会委員を次の 6 名に決定した（20150205）。岩瀬 彬会員、杉戸信彦会員、谷川晃一朗会員、千葉 崇会員、宮入陽介会員、吉田英嗣会員。

庶務（佐藤）

1. 平塚市博物館（館長：澤村泰彦氏）から町田 洋・新井房夫（1983）広域テフラと考古学、第四紀研究、22 の図 7 の転載許可願（転載先：春期特別展図録『転変地異—平塚周辺の自然災害—』）があり（150203）、これを許可した（150216）。
2. 長橋良隆会員から廣瀬孝太郎・長橋良隆・中澤なおみ（2014）福島県猪苗代湖の湖底堆積物コア（INW2012）の岩相層序と年代、第四紀研究、53 の図 3 の転載許可願（転載先：「猪苗代湖の湖底堆積物コア試料（INW2012）のコア写真と軟 X 線写真」『共生のシステム』Vol.15、福島大学理工学群共生システム理工学類）があり（150206）、これを許可した（150216）。
3. 2015 年学会賞・学術賞受賞候補者選考委員会を立ち上げ、選考を開始した。
委員：池原 研（地質学）会員、竹村恵二（地質学）会員、海津正倫（地理学、委員長）会員、高原 光（植物学）会員、兵頭政幸（地球物理学）会員
4. 2015 年論文賞・奨励賞受賞候補者選考委員会を立ち上げ、選考を開始した。
委員：中川 毅（地質学）会員、植木岳雪（地理学）会員、鈴木毅彦（地理学）会員、那須浩郎（植物学）会員、吉永秀一郎（土壌学）会員

行事・企画（出穂・小森・米田）

1. 受賞者記念講演会

2015 年 2 月 1 日 13:25～17:00 於、東京大学理学部二号館講堂

小野・斎藤・池原・高原各会員に講演いただいた。キャンセルとなった阿部会員の講演は、8 月大会にて開催予定。

参加者：67 名（会員 45 名、非会員 20 名、不明 2 名）

2. 大会・総会の予定（小森）

8 月 29 日

10:00～13:00 評議員会

13:30～14:30 ポスター口頭説明（希望者のみ）

14:30～16:00 ポスターセッション

16:15～17:00 阿部彩子会員 学術賞受賞講演（質疑応答込み）

17:00～18:00 各賞表彰式（受賞講演会と同じ会場）

18:00～懇親会

8 月 30 日

9:30～12:30 シンポジウム

13:30～15:00 総会

15:30～17:00 ポスターセッション

3. 一般講演会（出穂）

INQUA の普及講演会を四紀学会と共同主催

7 月 5 日（日）名古屋科学館、展示あり（パンフレット、松葉会員）、事前葉書申し込み 日本第四紀学会に送付し、学会で受付。（担当 堀 和明）、7 月 25 日（土）、26 日（日）名古屋大学博物館（担当 中村俊夫、門脇）

事務局

1 名の逝去の報告があった。

<審議事項>

会員の入退会

1 名の入会申請と、5 名の退会申請を承認した。

講習会の決定

講習会「放射性炭素年代とベイズ推定によるデータ解析」を 2015 年 5 月 20 日（水）～22 日（金）に、東京大学総合研究博物館において、東京大学総合研究博物館放射性炭素年代測定室と共同で開催することとした。参加費は無料。ポストドクの研究者 2 名に講師料（日当 1 万円）を支払うこととした。

役員選挙日程等の確認

以下の 2015・2016 年度の役員選挙日程案で、選挙管理委員会委員と調整することとした。

3 月 21 日 選挙管理委員会第 1 回会議、明治大学で開催（決定済み）。

4月10日 評議員選挙の投票用紙の送付。場所は明治大学の予定。

5月17日(日) 評議員選挙の開票作業。

6月28日 15:00～ 幹事選挙の開票を産業技術総合研究所で実施。開票の結果を受け、小野会長、斎藤文紀副会長、水野幹事長、北村庶務が幹事への承諾依頼を行う。

組織改革に関して

会員の登録する専門分野について、会員動向を把握するためのアンケートを実施することとした。アンケートの文面は幹事長が作成し、組織改革委員会(日時:4月5日10時～、場所:明治大学)での検討を経て、2015・2016年度の評議員選挙の投票用紙とともに、会員に送付することとした。アンケートの集計は組織改革委員会が行う。

2016年大会会場について

2016年大会会場については、同大会は60周年の記念大会であること、四紀学会の組織改変にかかわる重要な大会であることから、多くの参加者が見込める関東地域を検討し、第1候補を千葉大学、第2候補を国立極地研究所として、幹事長が打診することとした。

通信評議員会に関する会則変更

第13条に第5項として以下を追加することとし、次回評議員会に諮ることとした。

「会長が必要と認める場合には、電磁的方法をもって評議員会を開催し、2分の1以上の返信をもつ

て成立させることができ、審議に加わった評議員の過半数が同意の意思表示をしたときは、議決することができる。」

(2015年8月30日、総会で一部改正)

JpGU大会のブース出展について

JpGU大会時の本学会関連のセッション「ヒト-環境系の時系列ダイナミクス」開催日(現時点で未定)にブースを出展し、第四紀研究特集号(5年分)・INQUA関連資料の展示、デジタルブック第四紀の販売、会費納入の受付を、事務局が行うこととした。会費納入の受付に関しては、会員メーリングリストと学会ホームページで会員に周知する。他の日の運用については、引き続き審議することとした。

JpGU大会時の評議員会の開催について

本学会関連のセッション「ヒト-環境系の時系列ダイナミクス」開催日(現時点で未定)の夕方2時間、評議員会を開催することとし、会議室は庶務・北村が予約することとした。

広報パンフレット作成

幹事長・庶務の原案を検討し、A4版、4ページ、図・写真を中心とし、簡単な説明をつける体裁とした。3月末までに北村が原案を作成し、その後、幹事会で修正した後、5月連休明けに印刷所に回すこととした。

★★★ 第四紀通信に情報をお寄せ下さい ★★★

第四紀通信の原稿は随時受け付けております。

広報幹事：齋藤めぐみ (memekato(at)kahaku.go.jp) 宛にメールでお送り下さい。

第四紀通信は奇数月月上旬原稿締め切り、偶数月 1 日刊行予定としていますが、情報の速報性
ということから、版下が出来た段階でホームページに掲載するよう努力しています。

奇数月 15 日頃にはホームページにアップするようにしていますのでご利用下さい。

日本第四紀学会広報委員会 国立科学博物館 地学研究部 齋藤めぐみ
〒 305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1 FAX：029-853-8998

広報委員：那須浩郎・糸田千鶴・奥村公弥子 編集書記：岩本容子

日本第四紀学会ホームページ <http://quaternary.jp/> から第四紀通信バックナンバーの PDF ファイル
を閲覧できます。

日本第四紀学会事務局

〒 169-0072 東京都新宿区大久保 2 丁目 4 番地 12 号 新宿ラムダックスビル 10 階
株式会社春恒社 学会事業部内

E-mail：daiyonki(at)shunkosha.com 電話：03-5291-6231 FAX：03-5291-2176